

○計画期間：平成26年4月～平成31年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市の中心市街地は、平成26年3月に「第2期高崎市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、継続した中心市街地の活性化に取り組んでいる。

中心市街地活性化の戦略として高崎駅徒歩圏に整備する「新体育館（高崎アリーナ）」、「高崎文化芸術センター」、「群馬県コンベンション施設」のハード事業においては順調に整備が進捗し、平成28年度には高崎アリーナが完成を迎え、高崎文化芸術センターについても建設に着手している。また、群馬県コンベンション施設は、昨年度に引続き埋蔵文化財調査を行うとともに既存施設の解体を行い、実施設計の策定にも着手している。

さらに、高崎駅西口と直結する「（仮称）高崎オーパ」も平成29年秋の開業に向け建設が進んでおり、本市の中心市街地は、交流人口が大きく増加する都市構造に変化しようとしている。

これら、交流人口の増加を見込み、来街者を中心市街地全体へ波及させるための事業として、賑わいと回遊性の向上を目的に継続実施している「高崎まちなかオープンカフェ推進事業」や「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」、個店の魅力や集客力を高める「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」により、歩行者・自転車通行量は大幅な増加の傾向を示し、まちなか回遊の効果が表れている。

今後は、中心市街地に更なる面的効果を波及させるため、「都市計画道路仲通り線修景施設整備事業」で新たな賑わい空間を整備するなど、官民一体となった中心市街地の活性化に向けた取り組みが進んでいる状況である。

2. 平成28年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成28年度は、「歩行者・自転車通行量（休日）」が基準値を大きく上回る結果となったが、これは、毎年恒例の大規模イベントや「高崎まちなかオープンカフェ推進事業」、「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」の継続実施により、来訪者がまちなかの回遊に慣れてきたこと、また、商店街団体等による各種イベントの開催が増えたことにより、中心市街地のおもしろさが高まっていること、さらに、新たな店舗の進出や商店のリニューアルが継続して進む傾向にあること等が要因となって、中心市街地の求心力が向上したものと推測する。

また、「小売業年間商品販売額」は高崎駅西口のビブレの閉店の影響もあり基準年値を下回っているが、平成28年度に行ったフォローアップ調査の結果増加傾向にあり、今後さらに（仮称）高崎オーパの整備により大幅な増加が見込まれると考えられる。

さらに、「文化施設の利用者数の合計値」も前年度から増加しており、多くの利用者を見込める高崎文化芸術センターが整備中にも関わらずこのような傾向にあることは、文化事業の実施と定着が成果として表れてきていると評価できる。

計画期間も後半に差し掛かるが、引き続き各事業の確実な進捗と更なる活性化に向けた事業展

開を期待するものである。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
市民・まちなか居住者・広域来訪者が楽しく回遊できるまち	歩行者・自転車通行量 (休日)	101,411 人 (H24)	108,500 人 (H30)	126,549 人 (H28)	①	①
高い集客力を生かした経済活力にあふれるまち	小売業年間商品販売額	1,172 億円 (H23)	1,375 億円 (H30)	1,065 億円 (H28)	-	①
音楽を中心とした“高崎文化”を創造発信するまち	文化施設の利用者数の 合計値	612,251 人 (H24)	1,070,770 人 (H30)	620,995 人 (H28)	②	②

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量（休日）」は、平成 25 年度からスタートした個店の魅力アップを推進する「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」、中心市街地の回遊性と賑わいの向上を図る「高崎まちなかオープンカフェ推進事業」、「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」、その他、基本計画掲載のソフト事業で中心市街地の回遊性への慣れと魅力の拡大につながったことにより、通行量が大幅に増加した。今後も継続した事業の実施により目標の達成を目指す。

「小売業年間商品販売額」については、平成 28 年度に中間フォローアップ調査を行い、平成 24 年から平成 26 年の数値の推移から、本市においては増加傾向にあると推計され、各施設の整備、中心市街地への誘引施策等、基本計画に掲載した事業を引続き進めることで、目標の達成を目指す。

「文化施設の利用者数の合計値」については、評価の対象となる高崎文化芸術センターが整備中で数値を取り入れていない。今後もその他の対象 4 施設での魅力的な催しを継続して行うとともに事業間で連携を強化するなど、引き続き増加のための施策を展開し目標の達成を目指す。

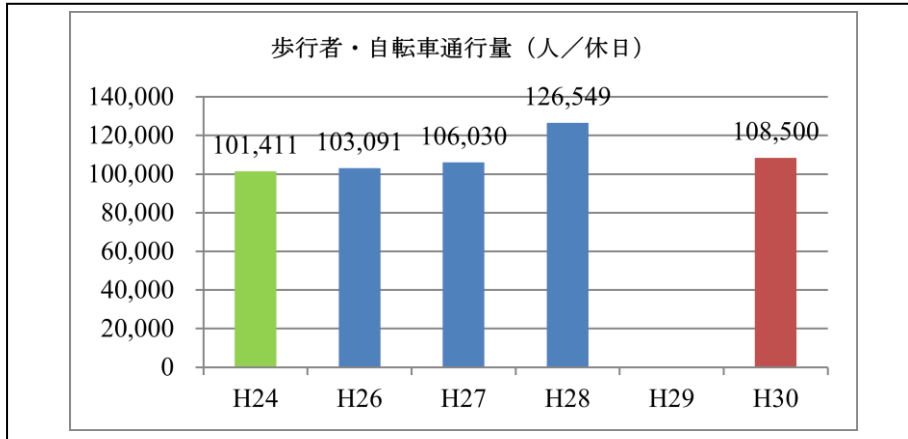
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施からの変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 P68～P74 参照

●調査結果の推移



年	（人/日）
H24	101,411 （基準年値）
H26	103,091
H27	106,030
H28	126,549
H29	
H30	108,500 （目標値）

※調査方法：10月の第5日曜日に14地点で10時から20時まで計測

※調査月：平成28年10月

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地14地点における歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業（高崎市）

事業完了時期	平成28年度【実施中】
事業概要	市内の店舗等で新たな競争力をつけるために行うリニューアル工事にかかった費用の一部を支援する。この事業により、店舗等の魅力や集客力、賑わいや回遊性が向上し、中心市街地の活性化に寄与する。
事業効果及び進捗状況	<p>本事業の制度を活用した割合は、市全体の約3割が中心市街地の店舗となっており、魅力ある店舗づくりが進んだことから歩行者・自転車通行量が増加した。また、制度を活用した店舗には新たなコミュニティが構築されるなど、賑わいや店舗間の回遊性の向上にも寄与している。</p> <p>本事業は、計画上平成28年度事業完了予定となっているが、活用を希望する店舗が多いため平成29年度も事業を継続しており、今後計画変更を行う予定である。</p>

②. 高崎まちなかオープンカフェ推進事業（高崎まちなかオープンカフェ推進協議会）

事業完了時期	平成25年度から【実施中】
事業概要	都市再生特別措置法の改正を契機に歩道上でオープンカフェが行えるようになったことから、まちなかに新たな回遊性と賑わいを創出するため実施している事業。
事業効果及び進捗状況	本事業は、平成25年度から継続して行っており、参加店舗は開始時の13店舗から平成28年度には17店舗に増加した。新たな店舗の参加も見込まれるなど事業も着実に定着してきており、中心市街地の賑わいの向上に寄与している。

③. 高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業

(高崎まちなかコミュニティサイクル推進協議会)

事業完了時期	平成 25 年度から【実施中】
事業概要	まちの移動手段の多様化は都市の魅力を高めることから、新たな交通手段として実施する事業。この事業を行うことにより、中心市街地に新たな賑わいと回遊性の向上を図る。
事業効果及び進捗状況	本事業は、平成 25 年度から継続して行っている事業であり、自転車数が開始時の 100 台から 150 台に、サイクルポートが 12 箇所から 16 箇所に増加した。中心市街地を移動する新たな交通手段として事業も定着しており、中心市街地の回遊性の向上に寄与している。

④. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される高崎文化芸術センターは、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年度に着工し平成 30 年度に完成する予定である。

⑤. 新体育館建設事業（高崎市）

事業完了時期	平成 28 年度【済】
事業概要	老朽化した中央体育館を移転新築し、市民が利用しやすい施設・設備とすることで、市民スポーツの普及と振興を図る。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される新体育館は、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年 12 月に建物が完成し、平成 29 年 4 月に開館した。

⑥. 群馬県コンベンション施設整備事業（群馬県）

事業完了時期	平成 31 年度【実施中】
事業概要	高崎競馬場跡地に大規模展示施設、メインホール、大規模な学術会議に対応する会議室を備えたコンベンション施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される群馬県コンベンション施設は、その規模とともに催しの前後における宿泊や飲食等に大きな効果をもたらす。現在は、埋蔵文化財発掘調査、既存施設の解体、実施設計の策定を行うなど整備に向けた準備を行っているところである。整備基本計画を見直し、事業完了を平成 31 年度としたことから計画期間内の効果は望めない状況となっている。

⑦. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（高崎市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、商業・オフィスビルを整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される商業・オフィスビル（高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業）は、集客力の向上や賑わいの創出に寄与し、飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。現在は、事業着工に向け準備を行っているところであるが、平成 29 年度の事業完了は見込めない状況のため、計画の変更を予定している。

⑧. （仮称）高崎オーパ整備事業（株式会社 オーパ）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	ビブレ跡地などに（仮称）高崎オーパを整備し、広域からの集客向上と商業拠点の機能強化を図る。
事業効果及び進捗状況	高崎駅西口のビブレが閉店し、ビブレの規模を上回る新たな（仮称）高崎オーパの整備を行う。現在は、本体施設に着工中であり、事業完了は平成 29 年度秋を予定している。

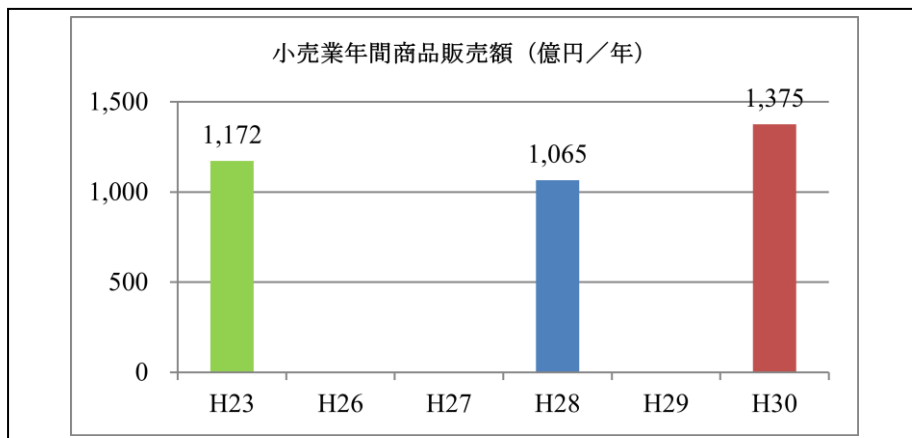
●目標達成の見通し及び今後の対策

高崎市まちなか商店リニューアル助成事業、高崎まちなかオープンカフェ推進事業、高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業は継続実施により多くの人に利用され順調に進捗している。

今後も、平成 29 年度開館の新体育館（高崎アリーナ）や、街の賑わい増に大きく寄与する（仮称）高崎オーパのオープンなど、広域からの集客効果をもたらす高崎駅周辺の都市集客施設の事業を進めるとともに、回遊性を大きく向上させるペDESTリアンデッキの延伸など様々な整備に取り組み、交流人口を大幅に増加させて、更に実績を伸ばしたい。

「小売業年間商品販売額」※目標設定の考え方基本計画 P75～P82 参照

●調査結果の推移



年	（億円／年）
H23	1,172 （基準年値）
H26	
H27	
H28	1,065
H29	
H30	1,375 （目標値）

※調査方法：商業統計調査、経済センサス等に基づく推計

※調査年：平成 28 年度

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地の小売業

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（高崎市）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、商業・オフィスビルを整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される商業・オフィスビル（高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業）は、集客力の向上や賑わいの創出に寄与し、飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。現在は、事業着工に向け準備を行っているところであるが、平成 29 年度の事業完了は見込めない状況のため、計画の変更を予定している。

②. （仮称）高崎オーパ整備事業（株式会社 オーパ）

事業完了時期	平成 29 年度【実施中】
事業概要	ビブレ跡地などに（仮称）高崎オーパを整備し、広域からの集客向上と商業拠点の機能強化を図る。
事業効果及び進捗状況	高崎駅西口のビブレが閉店し、ビブレの規模を上回る新たな（仮称）高崎オーパの整備を行う。現在は、本体施設に着工中であり、事業完了は平成 29 年度秋を予定している。

③. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される高崎文化芸術センターは、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年度に着工し平成 30 年度に完成する予定である。

④. 新体育館建設事業（高崎市）

事業完了時期	平成 28 年度【済】
事業概要	老朽化した中央体育館を移転新築し、市民が利用しやすい施設・設備とすることで、市民スポーツの普及と振興を図る。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される新体育館は、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年 12 月に建物が完成し、平成 29 年 4 月に開館した。

⑤. 群馬県コンベンション施設整備事業（群馬県）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	高崎競馬場跡地に大規模展示施設、メインホール、大規模な学術会議に対応する会議室を備えたコンベンション施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される群馬県コンベンション施設は、その規模とともに催しの前後における宿泊や飲食等に大きな効果をもたらす。現在は、埋蔵文化財発掘調査、既存施設の解体、実施設計の策定を行うなど整備に向けた準備を行っているところである。整備基本計画を見直し、事業完了を平成31年度としたことから計画期間内の効果は望めない状況となっている。

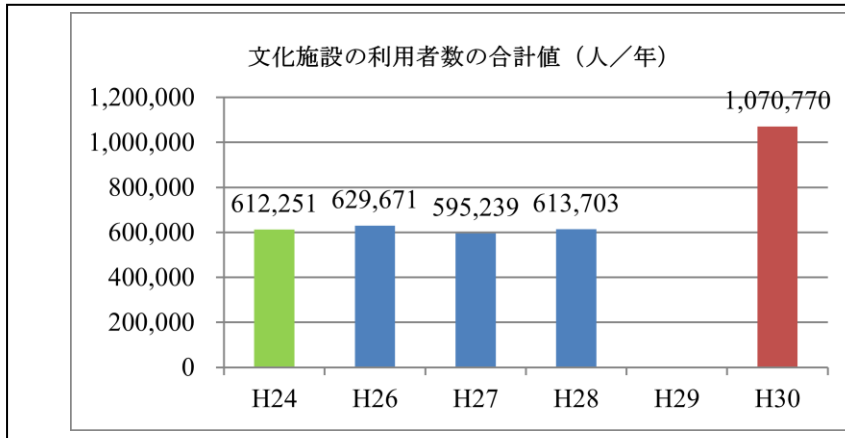
●目標達成の見通し及び今後の対策

「小売業年間商品販売額」は、平成28年度に行った中間フォローアップ調査の結果、平成24年から平成26年の数値の推移から増加傾向にあると推計される。

また今秋オープン予定の（仮称）高崎オーパは閉店したビブシの規模を大きく上回る商業施設であり、隣接する高崎高島屋も入店者数の大幅増を見込むなど、目標達成に向け順調に進捗している。今後も、各施設の整備や中心市街地への誘引施策等、基本計画に掲載した事業を引続き進めることで、目標達成を目指していきたい。

「文化施設の利用者数の合計値」※目標設定の考え方基本計画 P83～P87 参照

●調査結果の推移



年	（人/年）
H24	612,251 （基準年値）
H26	629,671
H27	595,239
H28	613,703
H29	
H30	1,070,770 （目標値）

※調査方法：利用者数調査（独自調査）

※調査年：平成28年度

※調査主体：高崎市

※調査対象：群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館、高崎市タワー美術館、高崎文化芸術センター（整備中）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎音楽祭（高崎音楽祭委員会）

事業完了時期	平成2年度から【実施中】
事業概要	高崎音楽祭は、クラシックやジャズなど、期間中はあらゆる音楽が高崎に

	集結し大きな賑わいを見せている。芸術鑑賞の機会を提供することで来訪者の増加に繋げるもの。
事業効果及び進捗状況	幅の広いジャンルの音楽を提供する高崎音楽祭は、群馬音楽センターや高崎シティギャラリーのほか、中心市街地のいたるところでイベントを実施することにより多数の集客効果をもたらしており、年々その数は増加している。

②. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される高崎文化芸術センターは、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年度に着工し平成 30 年度に完成する予定である。

③. 企画文化事業（高崎市）

事業完了時期	平成 26 年度から【実施中】
事業概要	高崎の文化性、ブランド力の中核となる群馬交響楽団の演奏会や国内外のエンターテインメント性の高い芸術鑑賞の機会とともに、市民の文化活動の成果を発表する場を提供することで広域からの集客向上を図る。
事業効果及び進捗状況	群馬交響楽団では年間 9 回の定期演奏会のほか、年間約 30 回の依頼演奏会を実施している。また、中心市街地のカフェで「Café パーティーwith 群響メンバー」を開催するなど、活性化に寄与する事業を展開している。この Café パーティーwith 群響メンバーの平成 28 年度の利用者は 135 人で前年度とほぼ同じ水準だが楽しみにしているファンは多く、着実に事業が定着してきている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「文化施設の利用者数の合計値」は、基準年値を上回る結果となった。しかし、評価対象 4 施設（群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館、高崎市タワー美術館）の稼働率に大きな変化が見られないことから、今後も引き続き魅力的なイベント実施と事業間の連携に努めるとともに、利用者のニーズに即した既存事業の見直しや新規事業の追加などの計画変更の検討を行う等、入場者数の増加を図っていく。また、整備が本格化する高崎文化芸術センターは、音楽専用ホールで文化芸術の創造拠点として広域からの誘客を見込んでいる。今後は掲げた目標を達成するため、平成 29 年度に開館した新体育館（高崎アリーナ）や今秋オープン予定の（仮称）高崎オーパなどの多くの集客が見込める施設にて各種情報発信の手法を研究するなど文化施設への誘引・誘客を図っていく。